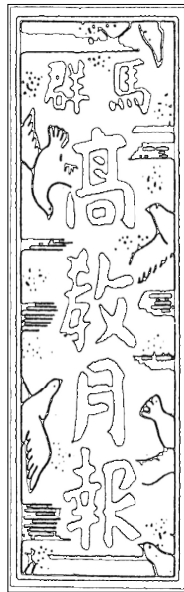


高校教職員ボウリング大会

団体は大泉チームが978点で堂々の優勝



前橋市大手町 3-1-10
 群馬高教組
 027-231-2784
 ghtu@educas.jp
 http://www.ghtu.org/



6月24日(土)、恒例の群馬県高校教職員ボウリング大会が、エヌラルトボウルで開催されました。団体は石原さん・新井さん・関さんの大泉高校が他を圧倒して優勝、個人は石原さん(大泉)が367点で優勝しました。参加は6チーム18名とやや少なめでしたが、小笠原福対部長肝いりの趣向を凝らした賞品や参加賞のタオルなどを手に、選手は大会を存分に楽しみ、笑顔のうちに閉会式を終了しました。大会参加の皆さん、ありがとうございました。今年度は11月にもボウリング大会を開催する予定です。多くの方の参加をお待ちしています。



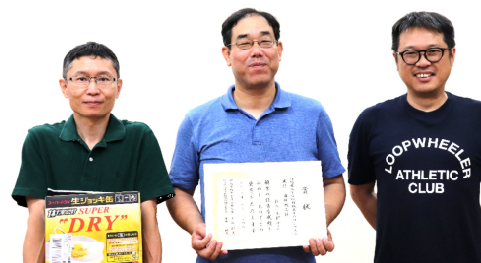
団体優勝
大泉高校

団体優勝： 大泉高校チーム 978 P
 準優勝： 安中総合チーム 786 P
 3位： 市立前橋・本部チーム 757 P



団体準優勝
安中総合

個人優勝： 石原靖久さん(大泉) 424 P
 準優勝： 比企 貴さん(市前) 349 P
 3位： 新井民夫さん(大泉) 319 P



団体第3位
市前・本部



個人

右から新井さん
石原さん
比企さん

防衛予算増に反対!

第1次世界大戦の引きがねとなつたサライエヴォ事件から、6月28日で百九十九年が経ちました。泥沼の日中戦争をもたらした盧溝橋事件は、86年前の7月7日に起きています。そして今、「自衛のための最小限度の実力」とされた自衛隊発足から69年が経過し、防衛予算の大幅増加が岸田内閣によって強行されようとしています。

アジア・太平洋戦争では、日本の侵略によりアジア諸国の人々約2千万人、日本国民約310万人の尊い命が奪われました。この悲惨な体験を踏まえて、二度と戦争をしないことを世界に誓ったのが、日本国憲法です。この憲法・憲法9条の平和主義のもとで、日本の若者は、戦争によって殺されることも、人を殺すこともなく戦後を過ごしてきました。

そして私たちの先輩も、教師が戦争に加担してきたことを深く反省し、「教え子再び戦場に送るな」のスローガンを掲げ、平和の中でこそ、子どもたちの未来を切り拓くことができると、日本国憲法が生きる学校・教育・社会の実現をめざしてきました。

安倍内閣の集団的自衛権行使容認やウクライナ情勢を受け、国民世論を無視して「戦争する国づくり」「そのための人づくり」に進む政府の暴走を阻止するために、生徒とともに戦争の歴史や教訓を学び直し、行動しましょう。

6・27 平田教育長との懇談

生徒には、自分で決めて考えて行動する力を身につけてほしい



6月27日(火)、県庁教育長室にて、平田郁美教育長と水田委員長・吉沢副委員長・萩原書記長との懇談がありました。30分ほどの懇談時間のため、細かい要望事項は夏季要請行動等に回すこととし、教育長の理念など県教委側の考えも聞き、当局との対話の中で、こちら側の主張を一方的に述べるのではなく課題を共有する方針で臨みました。短い時間のため全ての課題について十分とは言えませんが、幾分なりともかみ合う対話ができました。また、県教委側の考えを研究する必要性も感じました(「提言R5」など)。今回の懇談の内容を夏の要請行動や秋の確定交渉につなげていきたいと思えます。

水田 教育長としての理念を伺いたい。十年後を見通して、どのような生徒を育てたいのか。また、今後の群馬の学校再編の見通しはどうか。

教育長 予測が困難な時代。大人の決められた枠に従うのではなく、生徒に自分で決めて考えて行動する力をつけたい。

水田 少子化が進む中で、学校がなくなる地域が沈んでしまつて、実業高校の専門的な学科の継承も重要。多忙化解消とのからみで、学校・クラスを減らさず、教員を確保してほしい。

教育長 様々な課題があるので、優先順位をつけざるをえない。教育予算の確保が重要なのは分かっている。県の中で、国では他省庁に対して文科省が予算を取るよう頑張っていきたい。

水田 頑張りたい、との言葉はありがたい。水田 コロナが5類に移行したが、単に旧に復するのではなく、引き続き必要な会議や業務の削減をお願いしたい。

い(山梨県教委が現場での負担を減らすため、チラシやアンケートを学校に送らないよう努めるという記事を紹介)。高校総体開会式に、各校から生徒が招集されている。専門部会長の表彰式は別に生徒はいらない。授業確保がいわゆるが、生徒の学ぶ権利の観点からも問題である。

教育長 学校への通知・連絡は電子化・情報の共有化を進めている。(記事)に関心を示しながら)紙の配布は確かに大変である。教員の多忙化については「提言R5」を出して取り組んでいる。参照してほしい。総体の入場行進については戻ることはいらないだろう。

水田 入試が来年度より一本化されるが、他県では近年、採点ミスによる大量処分が起きている。県民の信頼という点からも公正・公平でミスがおきない入試をお願いしたい。情報開示に耐えられるようにという圧力のもと、特に記述問題の採点基準など現場の職員の負担が重い。

教育長 公正・公平な入試のあり方は重要だと思う。水田 部活動の改革が、中学と比べ高校は変化があまり見られない。部活動の負担で苦労している教員も多数いる。教育長 高校の改革が遅いのは認識している。検討していきたい。水田 先生方からの要望で、特別教室へのエアコン設置が強い。授業以前に生命・健康にかかわることなのでお願いしたい。教育長 頑張つて進んでいる。2年間で57%の見通し。

教育長との懇談後
西村人事課長より
・教員定数は、義務とは違い、クラス数での配置ではない。生徒数によるのでクラス数を増やしても法令上は教員増にはならない。
・内示は可能な限り早めた。事務引き継ぎなど実質的なところがスムーズにいくよう考えられている。

水田 教職員の不安の払拭という観点から、もさらに努力してほしい。

山梨では「小中学校25人学級」実現を公約として当選した知事が、この4月から教員の負担軽減を目的とした「文書半減プロジェクト」を始めて成果を挙げています。知事は「大胆に断捨離をする。子どもに向き合って成長を促すことが先生本来の仕事だ。」と述べています。
群馬県教委は昨年末に「提言R5～子どもたちに豊かな学びを届けるために～」を学校や保護者向けに示し、家庭訪問や夜間の電話対応の廃止、行事の縮小や簡略化、ICT化の推奨などについて取り組みを進めるよう提案しています。しかし、O

ECDの調査や知事肝いりで2659万円の予算を付けた「選挙出前授業」(3年生対象・投票率向上を目的に知事選前に実施するよう要請)、全生徒に配布するよう送りつけられた「知っておきたい法律の話」(知事のメッセージ入りで7月上旬までに配布するよう依頼)など、知事の思惑で学校現場が対応を迫られるような事例が多く見受けられます。県教委には、中立公正な立場を堅持し、上意下達で雑務にさかれる時間が多すぎる点を見直して、仕事としての魅力を増やすことで教職にチャレンジする人が増えてくるような実効ある施策を期待します。